



外国雑誌冊子体から電子ジャーナルへ — オンラインジャーナルはこうして始まった —

松井美抄枝

I. はじめに

インターネットが爆発的に拡大し、学術雑誌の電子化が急速に進んだことを背景に、電子ジャーナルが一般的に利用されるようになり、学術情報の新しい流通基盤として定着している。導入している図書室(館)も多い。今回、購読外国雑誌の冊子体の全部を電子ジャーナルで提供できるようにした。利用者からの要求に応えるため、従来の冊子体から電子ジャーナルを主体とした購読体系への移行となった。本稿では、導入に向けての具体的な取り組み作業と経緯を紹介したい。この経験を振り返り考察を加えて報告する。

II. 施設の概要

当院は、病床数678床、23診療科を有し臨床研修指定病院、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院である。また、日本医療機能評価 Ver.6 の認定を受けている。

働く人々の健康保持・増進を目的に、勤労者医療の積極的な推進を総合的にサポートしている。最先端の高度医療で安全で開かれた医療をめざし、地域の基幹病院の役割を担っている。

図書室は、管理棟2階(病院管理区域)に位置し、各科医局・看護部・事務局・研修医室に近く、アクセスのよい場所となっている。スペースは142m²で、全職員を利用対象とした図書室である。また、時代の変化によりIT環境

も整備されてきた。室内の窓からは四季折々の景色を感じられる明るく開放的な環境となっている。地域医療支援病院の役割を推進するため、地域の医師会の先生も利用していただけるようになった。図書室業務は司書一名で運営している。

III. 電子ジャーナル導入の背景

当院図書室の主な利用者は臨床現場で診療にあたる医療従事者である。利用者の便宜を考慮して24時間利用可能な環境を提供している。それでも多忙な医療従事者にとって、冊子体での利用は時間も手間もかかることになる。また冊子体で購入すると図書室内の容積を占めるうえに製本代がかかる。しかも当院では5年ごとにラックがいっぱいになるので製本雑誌の廃棄が必要となる。したがって、電子ジャーナル導入後は製本や保管場所が不要になるためこれらの経費が節約される。

かねてから、外国雑誌について電子版にして最新情報をフルペーパーで読めるようにしてほしいと電子ジャーナルの要望が多くあった。つまり、図書室に行かなくても、いつでも、時間と場所を気にせず、院内webでどこからでも利用可能となるからである。

IV. 電子ジャーナル導入への取り組み

図書部会(委員会)で2011年度購入外国雑誌について協議・検討した過程を踏まえ、導入推進をはかった。その結果、2011年以降、購読雑誌契約を冊子体から電子ジャーナルに移行とな

り職員全員が利用可能となった。当院で行った実現のための具体的な作業は以下のとおりである。

- (1) 雑誌選定作業
- (2) 各診療科への公平な雑誌分配
- (3) 院内通知
- (4) アクセス方法の通知

1. 雑誌選定作業

電子ジャーナルの開発には莫大な費用が必要となり、電子化の費用負担がアクセス権を得るための対価として雑誌購入金額に上乗せされる。したがって、前年度購読雑誌数(102冊)を削減せざるをえない現状である。購入雑誌予算枠という制限がある以上、利用度の低い雑誌は、購読を中止した。限られた予算内で購読雑誌の選定をし、前年度雑誌購読102タイトルから86タイトルに減らした。従来の、外国雑誌冊子体は中止となり86タイトルすべてが電子ジャーナルとなった。

2. 各科診療科への公平な雑誌分配

末梢血管外科、ペインクリニックは新規開設科であったため、診療科部長の希望で1タイトルずつ購読雑誌を増やすことになった。また、内分泌内科から新たにDiabetes Careの購入依頼が出ていることから既存雑誌と入れ替えが可能か検討した。

一方、院内診療科部長、技師長、看護部長に2011年度購入予定雑誌一覧を回覧し、各科医局の意見を元に購入雑誌の選書をした。

3. 院内通知

2011年度から購読外国雑誌を電子ジャーナルへすべて変更するむね、院内に通知した。

4. アクセス方法の通知

アクセス方法は院内のweb掲示板にて提供することになり全職員にお知らせで周知徹底した(図1、2)。

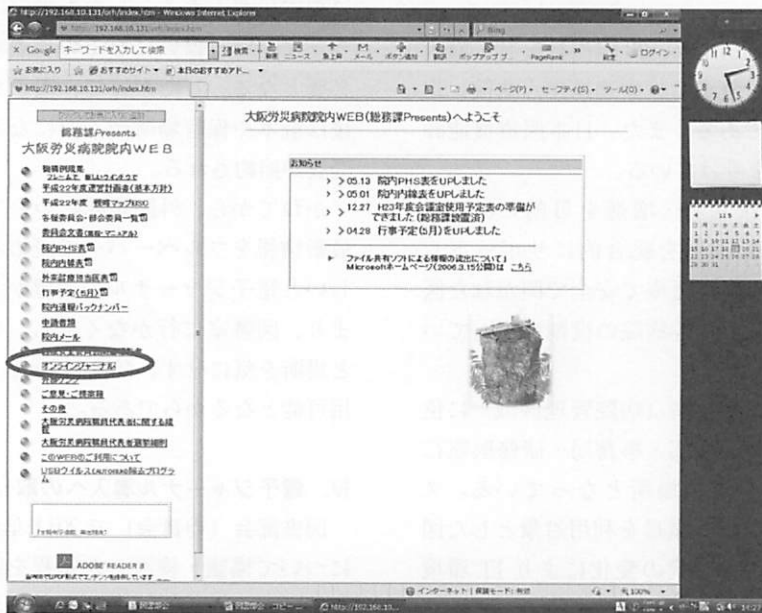


図1 アクセス方法 院内WEB掲示板から提供

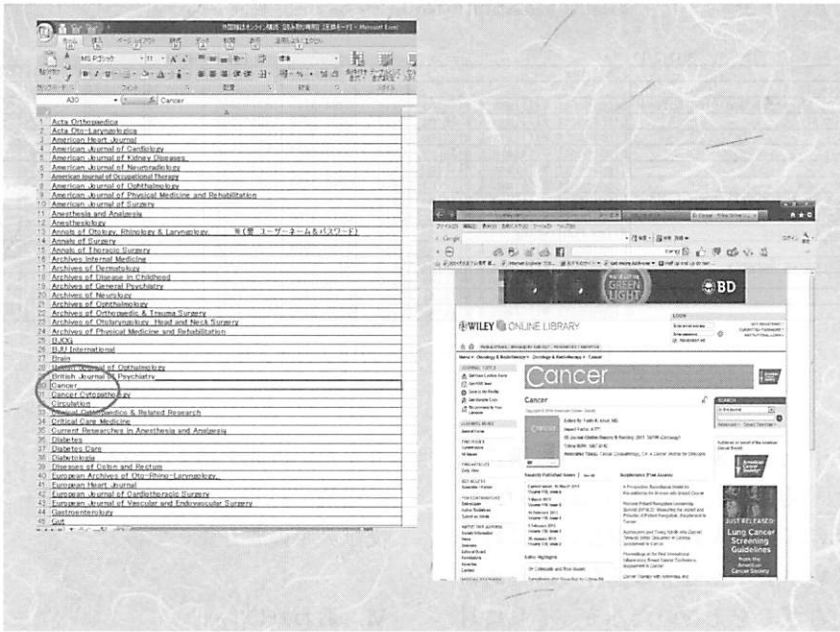


図2 アクセス方法 (Cancerを参照)

V. 考察

学術雑誌・論文を効果的に利用できる電子ジャーナルは、多忙な医療従事者にとっては冊子体から電子ジャーナルへの積極的な移行は避けることはできないと考えられる。冊子体には見られない利用統計や検索機能など、幅広い情報を短時間で利用者に提供できる利便性や価値は評価できる。

しかし、電子ジャーナルへの移行に伴い、アクセス方法の不具合など、予想外な事態に直面し、一抹の不安は残る (図3)。便利なことばかりではなく、結果的に良かったのかと危惧するところもある。今回、この経験を振り返った結果、長所もあれば短所もあることがわかった (図4)。

外国雑誌の定価は毎年値上がりし続けていることから、各科の利用統計 (アクセス回数) の利用状況は雑誌の購入を検討していく目安になる (図5)。雑誌の選定は大変神経を使う業務のひとつであるので、今後の選書作業にも生かせることになるだろう。雑誌確保の有無はアクセス数が大きくかかわってくるので、利用回数の

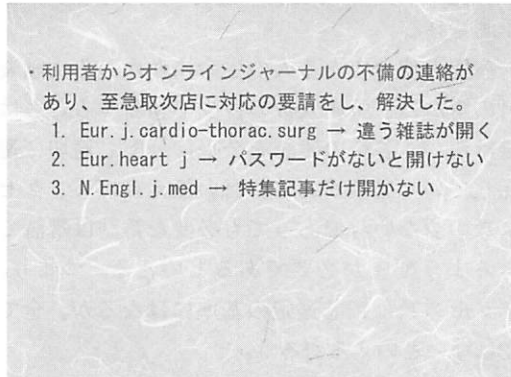


図3. アクセスの不備

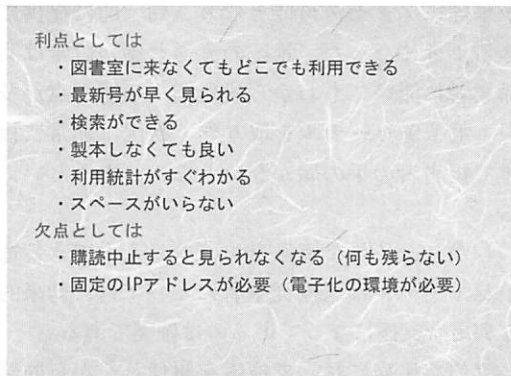


図4 オンラインジャーナル：当院の利点と欠点

Journal Report 1 (R3) Number of Successful Full-Text Article Requests by Month and Journal
 Osaka Rosai Hospital
 Date run:

2013/3/11		Publisher	Platform	Print ISSN	Online ISSN	Jan-13	Feb-13	YTD Total	YTD HTML	YTD PDF
Total for all journals						74	177	251	110	141
American Journal of Physical Medicine & Rehab	Lippincott Williams & Wilkins	Ovid	0894-9115	1537-7385		3	3	6	0	6
Anesthesia & Analgesia	Lippincott Williams & Wilkins	Ovid	0003-2999	1526-7598		9	17	26	4	22
Anesthesiology	Lippincott Williams & Wilkins	Ovid	0003-3022	1528-1175		2	7	9	3	6
Annals of Surgery	Lippincott Williams & Wilkins	Ovid	0003-4932	1528-1140		15	82	97	51	46
Circulation	Lippincott Williams & Wilkins	Ovid	0009-7322	1524-4539		14	11	25	15	10
Critical Care Medicine	Lippincott Williams & Wilkins	Ovid	0090-3493	1530-0293		3	0	3	1	2
Current Researches in Anesthesia & Analgesia	Lippincott Williams & Wilkins	Ovid		1526-7598		0	1	1	0	1
Diseases of the Colon & Rectum	Lippincott Williams & Wilkins	Ovid	0012-3706	1530-0358		3	23	26	15	11
Inflammatory Bowel Diseases	Wiley Publishing	Ovid	1078-0898	1536-4844		0	3	3	2	1
Neurosurgery	Lippincott Williams & Wilkins	Ovid	0148-396X	1524-4040		4	3	7	5	2
Plastic & Reconstructive Surgery	Lippincott Williams & Wilkins	Ovid	0032-1052	1529-4242		1	2	3	1	2
Retina	Lippincott Williams & Wilkins	Ovid	0275-004X	1539-2864		12	5	17	1	16
Spine	Lippincott Williams & Wilkins	Ovid	0362-2436	1528-1159		8	9	17	8	9
Stroke	Lippincott Williams & Wilkins	Ovid	0039-2499	1524-4628		0	11	11	4	7

図5 利用統計の一部 2013.1月～2月

少ない雑誌は中止の対象となるだろう。購読となるためには、利用度を上げなければならない。しかし、利用者（所属人数）の少ない科に対してはアクセス数が少なくても雑誌存続のための救済措置をとらざるをえないだろう。それに対し、所属人数の多い科はアクセス数が圧倒的に多いので、偏った科に購読数が集中することが予測される。

病院の使命である人の生命にかかわる文献資料の購読は、所属人数の多少で判断することは避けたい。各科の雑誌を公平に分配し適切に還元していく必要がある。言い換えれば、アクセス数の少ない科であっても必要な雑誌は購読できるよう配慮が必要であるといえる。つまり、アクセス数は雑誌選定の基準にはなるが、全てではないといえるだろう。

アクセス方法は職員の利便性を重視し院内web 掲示板を利用し情報を公開した。職員全員が平等にアクセス可能となり、効率的に提供できるようになった。雑誌の流通と価格設定は関係業者に聞いてもわからず疑問や不明な点が多い。電子ジャーナルを取り巻く状況は非常に複雑で担当者の手の届かないところにあるといえる。

しかし、必要な情報をすばやく入手できる電子ジャーナルは医療従事者にとっては、効果的な利用者支援になっているのは確実である。

深刻な疾病に対して検索を駆使しながらの確かな文献にたどりついたときなどは、陵駕するあ

りがたい機能を備えている。

当院では現在、間違いなく電子ジャーナルは文献入手の要となっている。

VI. おわりに

適切な情報を適切な形で迅速に提供していくことが、病院図書室（館）にとって重要な役割のひとつである。

当院では、電子ジャーナルは始まったばかりのサービスであり、完成されたものではない。快適にアクセスできるよう適切な環境の整備とトラブルを断じるための情報収集に努め、利用者にとってより有効なサービスを提供していきたい。導入のきっかけは、院内どこでも24時間雑誌が読みたいという利用者からの要望にこたえるため、オンラインジャーナルの検討を始めたことだった。強力なリーダーシップを持つ図書委員長を核として円滑に推進し検討を重ねた結果、2011年度より導入可能となり実現した。賛同していただいた関係者・職員の協力の賜である。利用者も電子ジャーナルへの志向を強め、利用ニーズは高まってきている。診療ニーズに合わせた資料を揃えることは、予算的にも容易なことではない。利用者が入れ替わっても、電子ジャーナルは活用の場を拡げ、利用度はますます増加するだろう。しかし、利用しなければ宝の持ち腐れになるので、図書室からも利用者に向けてどんどん情報を提供していきたい。永続的に利用可能にしていくためにも、何より利

用の拡大を進めることが重要となる。今後は、利用者の視点を大切に効果的なサービスをめざしていきたい。そして、オンラインジャーナル導入の原点となった利用者の声を真摯に受け止めサービス向上に努めていきたい。

小規模病院図書室（館）では、予算や管理システムの構築などが障壁となり電子ジャーナルの契約は難しい現状であるが、本稿がそれらの問題解決と導入のきっかけに少しでも役立てば幸いである。

参考文献

- 1) 会誌編集部：購読雑誌に関するアンケート結果報告. 病院図書館；2003；23(3)：130-4.
- 2) 及川はるみ：病院図書館における電子ジャーナルへの移行. 日赤図書館雑誌 2006；13(1)：8-12.
- 3) 小倉久男：エルゼビアの雑誌と電子ジャーナル価格をふくむ最近の動向. 病院図書館. 2003；23(3)：126-9.
- 4) 今野穂：電子ジャーナルによる国外学術雑誌整備. 薬学図書館 2008；53(4)：316-22.
- 5) 児玉岡：電子ジャーナルの効果的サービスのために. 病院図書館；2003；23(3)：117-21.